

白玉点滴・にんにく注射・ プラセンタ注射は本当に効く のか

「点滴」という **投与経路** のエビデンスを医師が読み解く





点滴だから効きそう

「医師がやるから安心」
それは**本当に正しいのか**
今日は文献で確かめます。

成分の作用と、 美容効果の証明は別問題

結論

薬理作用があることと、美容目的の効果が証明されていることは別の問題です。

本日のアジェンダ

- 1 白玉点滴**
グルタチオンの承認適応と、美白エビデンスの違い
- 2 にんにく注射**
ビタミンB1の欠乏症治療と、健康な人への効果
- 3 プラセンタ注射**
メルスモン・ラエンネックの承認された使い方
- 4 判断の物差し**
エビデンスのピラミッドと、受診前チェック

私は美容医療を提供する側ではありません

この動画は特定の施術・クリニックを推奨も否定もしません。公表されている文献を医師が整理した情報提供です。

立場の明示

脳神経内科医として、**承認された使い方と、自由診療での使われ方の違い**を淡々とお伝えします。

CHAPTER

第1章

白玉点滴

今日のキーワード

白玉点滴 しらたまてんてき

正式な医薬品名ではなく、グルタチオンなどを配合した点滴の**自由診療上の通称**です。中身の配合は施設ごとに異なります。

医師の視点

「白玉」は薬機法上の承認名ではありません。まずは成分そのものの承認適応から確認します。

グルタチオンには承認された使い道があります

グルタチオン注射は、肝機能の改善や特定の色素性疾患の治療薬として承認されています。

📋 承認適応と承認用量

承認適応は**肝斑・炎症後の色素沈着**など。承認用量は1回100～200mgで、健康な人の全身美白は承認外です。

出典：PMDA タチオン注射用 電子添文（2024年9月改訂）

よくある思い込みについて

✕ 承認されている薬だから、
美白にも効くはず

○ 承認は特定の色素性疾患の治療に対して。
健康な人の全身美白は承認された用途ではありません

研究の多くは点滴以外で行われています

投与経路	研究の状況	わかっていること
経口	複数のRCTあり	一部部位でメラニン低下の報告
外用	一部研究あり	露光部で軽度の色調変化
静注（点滴）	直接検証はほぼなし	唯一の試験でも有意差なし

※ 系統的レビュー(Dilokthornsakul 2019)の対象4研究は経口・外用のみ。静注は0件

CHAPTER

第2章

にんにく注射

今日のキーワード

にんにく注射

にんにくちゅうしゃ

実際ににんにくの成分は入っていません。ビタミンB1（チアミン）を主体とした注射で、代謝時ににんにくに似た匂いが出るのが名前の由来です。

医師の視点

匂いの正体はにんにくのアリシンに似た成分。注射液そのものはビタミン製剤です。

対象によって根拠の強さが変わります

対象	エビデンスの状況
B1欠乏症	明確な適応 欠乏を補正する治療として確立
境界域のB1不足	一定の根拠あり 高齢者・運動後の疲労軽減の報告
健康な人の疲労回復	頑健な根拠なし B1単剤の質の高いRCTは未確認

※ 経口と静注を直接比較した信頼できる研究も見つかっていません

「余ったら尿に出る」はどこまで正しいか

✕ 余った水溶性ビタミンは、
どうせ尿に出るだけだから安全

○ 概ね妥当ですが例外があります。
ビタミンB6は高用量で神経障害の報告があります

CHAPTER

第3章

プラセンタ注射

メルスモンとラエンネックは別物です

項目	メルスモン	ラエンネック
承認適応	更年期障害・乳汁分泌不全	慢性肝疾患の肝機能改善
承認された経路	皮下注射	皮下・筋肉内注射
点滴（静注）	承認外の用法	承認外の用法

保険診療と自由診療は、別の薬ではありません

メルスモンもラエンネックも、保険診療と自由診療で製剤そのものが変わるわけではありません。

違いは一点

違うのは承認された適応・用法の範囲内で使うか、その範囲を超えて使うかという点だけです。

プラセンタ注射と献血の関係

運用の内容

2006年10月以降にヒト由来プラセンタ注射を受けた人は、**当面の間 献血を遠慮する**運用になっています。

理由の正確な理解

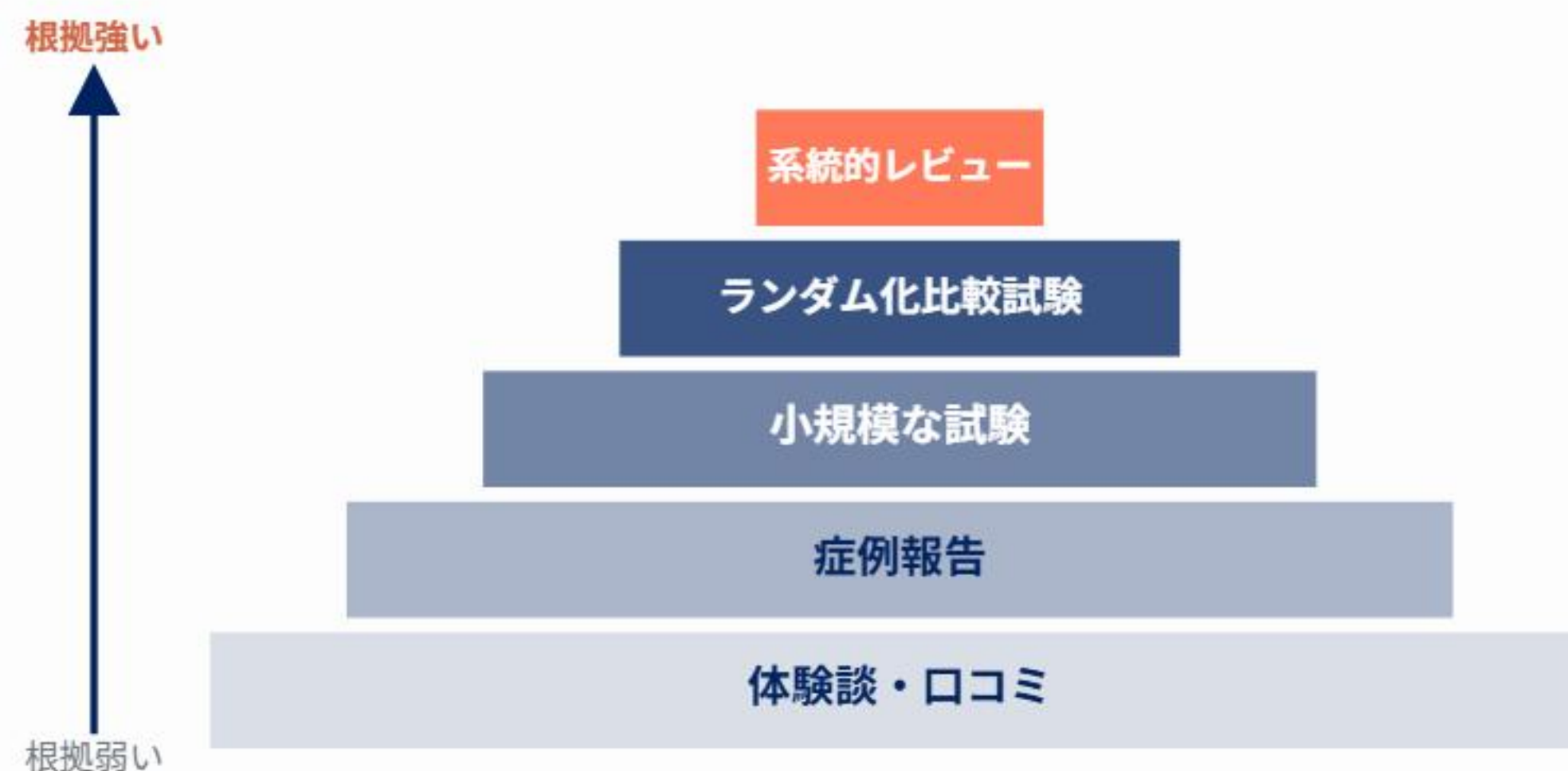
感染例の報告があるからではなく、**理論的リスクを否定しきれないための予防原則**による措置です。

CHAPTER

第4章

判断の物差し

情報の量と、根拠の強さは別物です



上ほど研究の質は高いが件数は少ない 下ほど件数が多いが結論の根拠は弱い

「効いた気がする」の正体

点滴の直後に調子が良く感じてても、それがそのまま美容成分の効果とは限りません。

対照試験からわかること

対照群も点滴を受けた試験で、**両群とも改善した**との報告があります。脱水補正・安静・プラセボ反応が関与し得ます。

出典：Ali A, et al. J Altern Complement Med. 2009（対照群は乳酸リンゲル液の点滴）

3つの点滴を並べてみます

項目	白玉点滴	にんにく注射	プラセンタ注射
承認適応	肝斑等の色素性疾患	ビタミン欠乏症	更年期障害等
承認された経路	筋注・静注 (低用量)	静注	皮下・筋注 (静注は承認外)
美容目的の直接研究	ほぼなし	ほぼなし	ほぼなし

※ 価格・持続期間は施設ごとに幅があり、有効性の根拠にはなりません

受ける前に確認したい4つ

- ① 承認された適応・用法の範囲内か
- ② 美容目的での有効性を示す質の高い研究があるか
- ③ 費用・持続期間・リスクの説明を受けたか
- ④ 献血など生活面への影響を確認したか

今日の3つの持ち帰りポイント

01

薬理作用と 美容効果は 別問題

薬理作用があっても、美容目的の有効性証明とは限りません。

02

点滴経路の 検証は手薄

経口・外用のエビデンスが、点滴の宣伝に流用されがちです。

03

判断材料は 自分で確認を

承認適応・研究の質・費用対効果を確認してから判断を。



ご視聴にあたってのお願い

この動画は**医学情報の解説**であり、**特定の施術の
推奨・否定ではありません。**

受けるかどうかは、効果・費用・リスクを理解し
た上での**ご自身の判断**となります。医療相談の代
わりにはなりません。

ご視聴ありがとうございました



概要欄をチェック
参考文献を掲載中



チャンネル登録
役立つ話題を
お届けします



高評価で応援
次回も**お楽しみに**

献血の条件や、ビタミン欠乏症についての関連動画・記事も
概要欄からご覧いただけます。